

ルーティング制御定理の証明

2006/03/31 作成

$\binom{n}{m}$ NW 上のルーティング制御

- $\{a_0, a_1, a_2, \dots, a_{n-1}\}$: ソースノードから伝送する n 個の $1/h$ シンボル
- $(i_0, i_1, \dots, i_{m-1})$: m 個の中間ノード番号
- $(h_{i_0}, h_{i_1}, \dots, h_{i_{m-1}})$: m 個の各中間ノードから伝送する $1/h$ シンボルの個数
 - h_{i_k} : 番号 i_k の中間ノードから伝送する $1/h$ シンボルの個数 ($1 \leq h_{i_k} \leq h$)
 - $\sum_{k=0}^{m-1} h_{i_k} = n$.

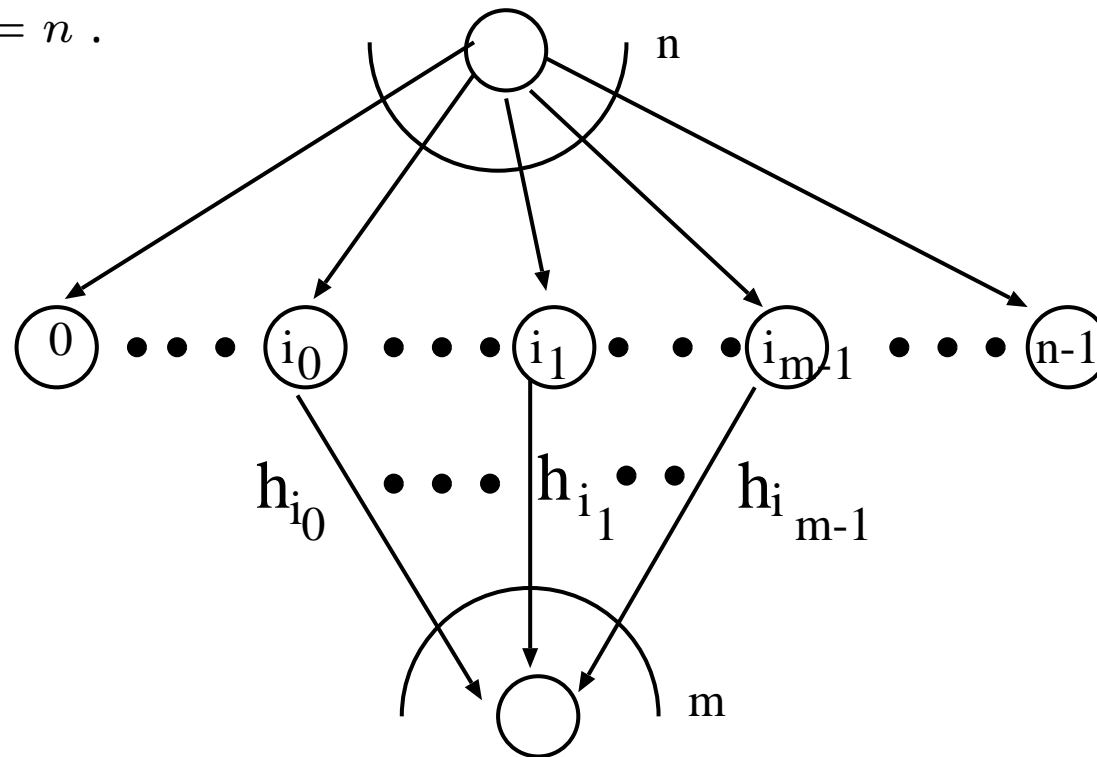
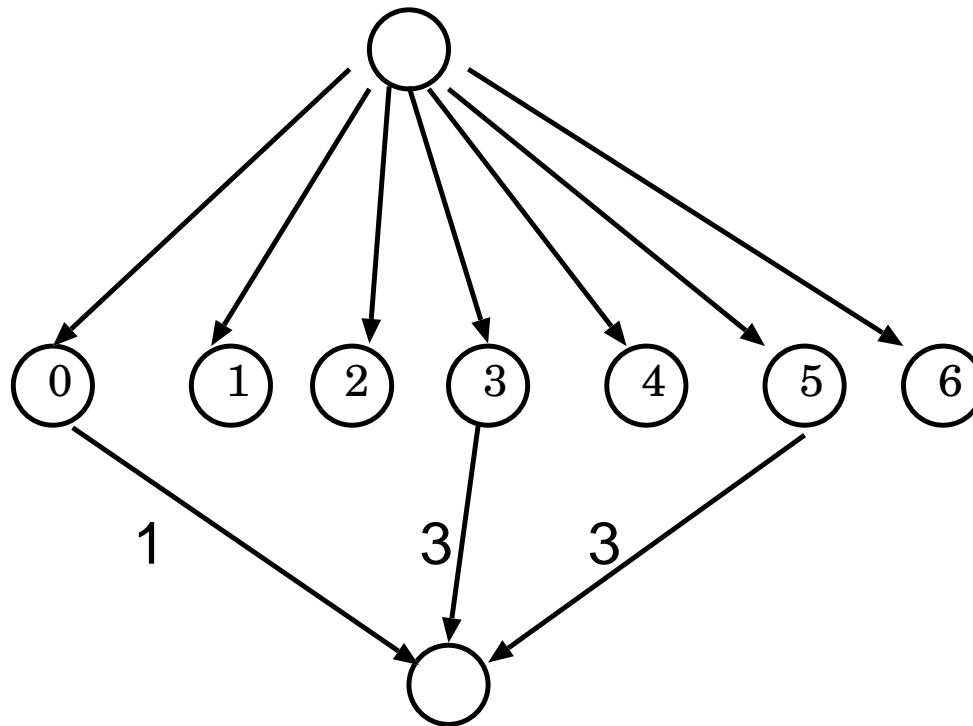


Figure 1: $(i_0, i_1, \dots, i_{m-1})$ and $(h_{i_0}, h_{i_1}, \dots, h_{i_{m-1}})$

An Example: $\binom{7}{3}$ NW

- $(n, m) = (7, 3) \Rightarrow (N, h) = (7, 5)$
- $\{a_0, a_1, a_2, \dots, a_6\}$: ソースノードから伝送する 7 個の $1/5$ シンボル
- $(i_0, i_1, i_2) = (0, 3, 5)$: 3 個の中間ノード番号
- $(h_0, h_3, h_5) = (1, 3, 3)$: m 個の各中間ノードから伝送する $1/h$ シンボルの個数



$\{h_0, h_3, h_5\}$
$\{0, 2, 5\},$
$\{0, 3, 4\},$
$\{1, 1, 5\},$
$\{1, 2, 4\},$
$\{1, 3, 3\},$
$\{2, 2, 3\}.$

Figure 2: $(i_0, i_1, i_2) = (0, 3, 5)$ and $(h_0, h_3, h_5) = (1, 3, 3)$

$\binom{n}{m}$ NW 上のルーティング制御定理

定理 3.1 [ルーティング制御定理]

$\binom{n}{m}$ NW に対し, ソースから中間ノードへは, サイクリックシフト伝送を行なう. そして, 任意のシンクに対し, m 本のリンクによって接続されている m 個の中間ノードからそのシンクへ伝送する $1/h$ シンボルの個数をそれぞれ h_0, h_1, \dots, h_{m-1} と表す. このとき, 任意の値の組 $(h_0, h_1, \dots, h_{m-1})$ に対し, ルーティング容量 $n/(n - m + 1)$ を達成する伝送が可能である. ただし, すべての $k = 0, 1, \dots, m - 1$ に対し, $1 \leq h_k \leq h$ を満たし, $\sum_{k=0}^{m-1} h_k = n$ とする.

- $h_k = 0$ の場合を考慮すると, 容易に, ルーティング容量を達成できない反例が示せる

$$(i_0, i_1, \dots, i_{m-1}) \Rightarrow (d_0, d_1, \dots, d_{m-1})$$

- $(i_0, i_1, \dots, i_{m-1})$: 任意の m 個の中間ノード番号
 - そこで、
 - $d_k := i_{k+1} - i_k \pmod{n}$ for $k = 0, 1, \dots, m - 1$: 近隣番号間の差の値 (間隔)
 - とすると、
 - $(d_0, d_1, \dots, d_{m-1})$: m 個の中間ノード番号間の間隔
- $1 \leq d_k \leq h$ and $\sum_{k=0}^{m-1} d_k = n$
- が求まる。
 - なぜなら、 $d_k \geq 1$ と $\sum_{k=0}^{m-1} d_k = n$ は明らか。
 - 次に、 $d_k > h$ と仮定すると、 $n = \sum_{k=0}^{m-1} d_k > h + m - 1$. 一方、 h の定義より、 $n = h + m - 1$ となり、矛盾。ゆえに、 $d_k \leq h$.

- たとえば、 $(i_0, i_1, i_2) = (0, 3, 5) \Rightarrow (d_0, d_1, d_2) = (3, 2, 2)$



逆に、 i_0 and $(d_0, d_1, \dots, d_{m-1}) \Rightarrow (i_0, i_1, \dots, i_{m-1})$

準備

- 条件 I を満たす 任意の m 個の正整数の組 $(d_0, d_1, \dots, d_{m-1})$ と $(h_0, h_1, \dots, h_{m-1})$ の 2 組を考える:

条件 I :

$$1) \quad 1 \leq d_k \leq h \text{ for all } 0 \leq k \leq m - 1, \quad (1)$$

$$2) \quad \sum_{k=0}^{m-1} d_k = n, \quad (2)$$

$$3) \quad 1 \leq h_k \leq h \text{ for all } 0 \leq k \leq m - 1, \quad (3)$$

$$4) \quad \sum_{k=0}^{m-1} h_k = n. \quad (4)$$

- このとき、整数 p に対し、次の条件 II を考える。ただし、 $0 \leq p \leq m - 1$ である:

条件 II :

$$\sum_{k=p}^{p+u} h_k \geq \sum_{k=p}^{p+u} d_k \text{ for all } 0 \leq u \leq m - 1 \quad (5)$$

ただし、添字は m を法として考える。

条件IIとは、

- ある整数 p , $0 \leq p \leq m - 1$ に対し、

$$\boxed{\text{条件 II}} : \sum_{k=p}^{p+u} h_k \geq \sum_{k=p}^{p+u} d_k \text{ for all } 0 \leq u \leq m - 1$$

- $(n, m) = (7, 3)$ の場合を考え、

たとえば、 $(d_0, d_1, d_2) = (3, 2, 2)$, $(h_0, h_1, h_2) = (1, 3, 3)$ とする。

- $\boxed{p = 0}$:

$h_0 \geq d_0$	$1 \not\geq 3$
$h_0 + h_1 \geq d_0 + d_1$	$1 + 3 = 4 \not\geq 5 = 3 + 2$
$h_0 + h_1 + h_2 \geq d_0 + d_1 + d_2$	$1 + 3 + 3 = 7 \geq 7 = 3 + 2 + 2$

- $\boxed{p = 1}$:

$h_1 \geq d_1$	$3 \geq 2$
$h_1 + h_2 \geq d_1 + d_2$	$3 + 3 = 5 \geq 4 = 2 + 2$
$h_1 + h_2 + h_0 \geq d_1 + d_2 + d_0$	$3 + 3 + 1 = 7 \geq 7 = 2 + 2 + 3$

- $\boxed{p = 2}$:

$h_2 \geq d_2$	$3 \not\geq 2$
$h_2 + h_0 \geq d_2 + d_0$	$3 + 1 = 4 \geq 4 = 2 + 2$
$h_2 + h_0 + h_1 \geq d_2 + d_0 + d_1$	$3 + 1 + 3 = 7 \geq 7 = 2 + 3 + 2$

定理 4.1

条件 I を満たす, 任意の m 個の正整数の組 $(d_0, d_1, \dots, d_{m-1})$ と $(h_0, h_1, \dots, h_{m-1})$ に対し, 条件 II を満たす p が少なくとも 1 個は存在する.

An Example: $\binom{7}{3}$ NW

- $(n, m) = (7, 3) \Rightarrow (N, h) = (7, 5)$
- $\{a_0, a_1, a_2, \dots, a_6\}$
- $(i_0, i_1, i_2) = (0, 3, 5)$
- $(h_0, h_3, h_5) = (1, 3, 3)$

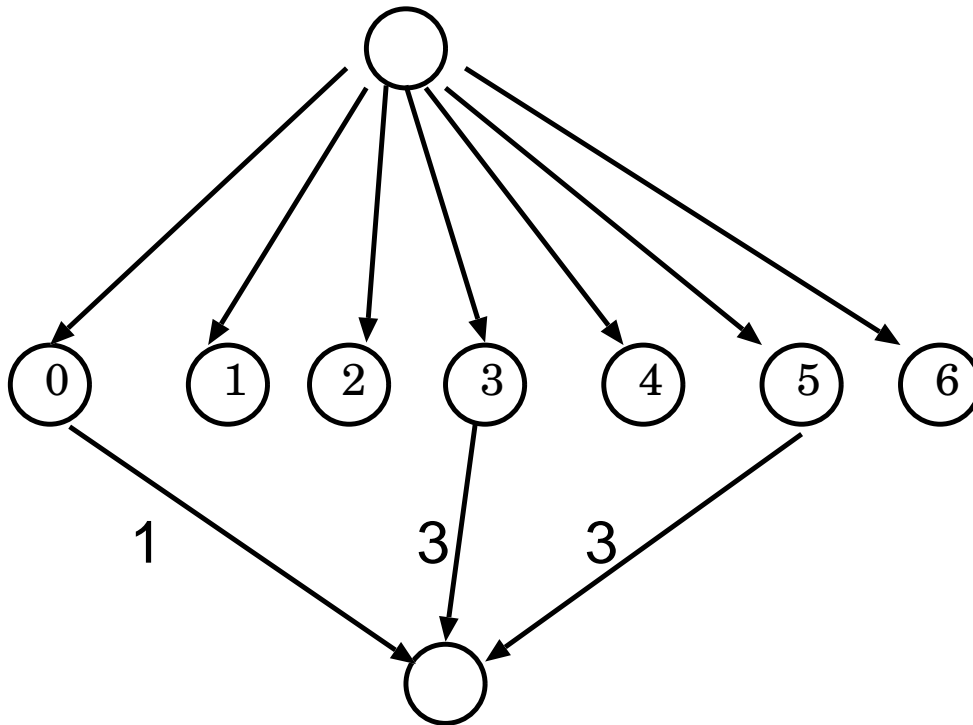


Figure 3: $(i_0, i_1, i_2) = (0, 3, 5)$ and $(h_0, h_3, h_5) = (1, 3, 3)$

- $(i_0, i_1, i_2) = (0, 3, 5) \Rightarrow (d_0, d_1, d_2) = (3, 2, 2)$
- $(h_0, h_3, h_5) = (1, 3, 3) \Rightarrow (h_0, h_1, h_2) = (1, 3, 3)$

- $p = 1$:

$$\begin{array}{rcl}
 h_1 & \geq & d_1 & & & & 3 & \geq & 2 \\
 h_1 + h_2 & \geq & d_1 + d_2 & & & & 3 + 3 = 5 & \geq & 4 = 2 + 2 \\
 h_1 + h_2 + h_0 & \geq & d_1 + d_2 + d_0 & & & & 3 + 3 + 1 = 7 & \geq & 7 = 2 + 2 + 3
 \end{array}$$

No. i		a_3	a_4	a_5	a_6	a_0	a_1	a_2	a_3	a_4	h_i
		3	4	5	6	0	1	2	3	4	
	$h_1 + h_2 + h_0 = 7$	←	—	—	—	—	—	→			
	$h_1 + h_2 = 5$	←	—	—	—	—	→				
	$h_1 = 3$	←	—	→							
$p = 1 \rightarrow 3$		●	●	●	○	○					3
5				○	●	●	●	○			3
0						○	○	●	○	○	1
	$d_1 = 2$	←	→								
	$d_1 + d_2 = 4$	←	—	—	→						
	$d_1 + d_2 + d_0 = 7$	←	—	—	—	—	—	→			

予備

No. <i>i</i>	a_0	a_1	a_2	a_3	a_4	a_5	a_6	a_0	a_1	a_2	a_3	a_4	a_5	a_6	a_0	h_i
	0	1	2	3	4	5	6	0	1	2	3	4	5	6	0	
$p = 0 \rightarrow 0$	●	○	○	○	○											1
3				●	●	●	○	○								3
5						○	●	●	●	○						3
$p = 1 \rightarrow 3$				●	●	●	○	○								3
5						○	●	●	●	○						3
0								○	○	●	○	○				1
$p = 2 \rightarrow 5$						●	●	●	○	○						3
0								○	●	○	○	○				1
3											●	●	●	○	○	3

- いま , 条件IIを満たすような整数 p が存在することを証明したい .
- そのために , 次のような 2 進系列 $(b_0b_1 \cdots b_{m-1})$ を考える .
各 $k = 0, 1, \dots, m - 1$ に対し , b_k を次のように定義する .

$$b_k := \begin{cases} 1 & (\text{if } h_k \geq d_k) \\ 0 & (\text{otherwise}) \end{cases} \quad (6)$$

- 条件 I より , 常に , $(b_0b_1 \cdots b_{m-1}) \neq (00 \cdots 0)$ である .
- $(n, m) = (7, 3) \Rightarrow (N, h) = (7, 5)$
- 例えば , 正整数の組として , $(d_0, d_1, d_2) = (3, 2, 2)$, $(h_0, h_1, h_2) = (1, 3, 3)$ とする .
- このとき , 2 進系列は $(b_0b_1b_2) = (011)$ となる .

$$(d_0, d_1, d_2) = (3, 2, 2) \quad (7)$$

$$(h_0, h_1, h_2) = (1, 3, 3) \quad (8)$$

$$(b_0, b_1, b_2) = (0, 1, 1) \quad (9)$$

- 2 進系列 $(b_0b_1 \cdots b_{m-1})$ の長さ : $1 \leq m \leq n$

- 自然数 m に関する数学的帰納法を用いて，条件 II を満たすような p が存在することを示す．
- $m = 1$ の場合 : $h_0 = d_0$ より，系列は $(b_0) = (1)$ となる．このとき， $p = 0$ は，条件 II を満たす．
- $m = 2$ の場合 : 系列 (b_0b_1) は $(11), (10), (01)$ のいずれかである．
 - (11) の場合 : $p = 0$ または 1 のどちらでも，条件 II を満たす．
 - (10) の場合 : $p = 0$ とすることで，条件 II を満たす．
 - (01) の場合 : $p = 1$ とすることで，条件 II を満たす．
 したがって，いずれの場合にも条件 II を満たす p は存在する．
- いま， $m - 1$ の場合 において，長さ $m - 1$ の任意の系列 $(b_0 \cdots b_{m-2})$ に対し，条件 II を満たす p が存在するものと仮定する．
 このとき， m の場合においても，条件 II を満たす p が存在することを示す．

- m の場合 : 長さ m の任意の系列 $(b_0 \cdots b_{m-1})$ に対し, その成分として

$(b_k b_{k+1}) = (00), (11), (10)$ のいずれかを満たす 2 個のビットの列が必ず存在する .

ここで, k は $0 \leq k \leq m - 1$ であり, b_k の添字は m を法として考える . そのような k を 1 個選び, 固定して考える .

- そして, $h'_k := h_k + h_{k+1}$ と $d'_k := d_k + d_{k+1}$ とし, ビット b'_k を

$$b'_k := \begin{cases} 1 & (\text{if } h'_k \geq d'_k) \\ 0 & (\text{otherwise}) \end{cases} \quad (10)$$

と定義する .

- これらの定義より, m の場合 における,

$(h_0 \cdots h_{m-1})$ と $(d_0 \cdots d_{m-1})$ および $(b_0 \cdots b_{k-1} b_k b_{k+1} b_{k+2} \cdots b_{m-1})$ から,

$m - 1$ の場合 に相当する次のものをそれぞれ構成することができる :

$(h_0 \cdots h_{k-1} h'_k h_{k+2} \cdots h_{m-1})$ と $(d_0 \cdots d_{k-1} d'_k d_{k+2} \cdots d_{m-1})$

および $(b_0 \cdots b_{k-1} b'_k b_{k+2} \cdots b_{m-1})$.

- このとき, 帰納法の仮定より, この $m - 1$ の場合に対し, 条件 II を満たす p が存在する .

- すなわち , そのような p を用いて以下のことが成り立つ : 添字は m を法として扱うことに注意する . ($h'_k = h_k + h_{k+1}$, $d'_k = d_k + d_{k+1}$)

$$(1 \sim k - p) \quad h_p + h_{p+1} + \cdots + h_{p+u} \geq d_p + d_{p+1} + \cdots + d_{p+u}$$

$$\text{for all } 0 \leq u \leq k - 1 - p , \quad (11)$$

$$(k - p + 2) \quad h_p + h_{p+1} + \cdots + h_{k-1} + h'_k$$

$$\geq d_p + d_{p+1} + \cdots + d_{k-1} + d'_k , \quad (12)$$

$$(k - p + 3 \sim m) \quad h_p + h_{p+1} + \cdots + h_{k-1} + h'_k + h_{k+2} + \cdots + h_{p+u}$$

$$\geq d_p + d_{p+1} + \cdots + d_{k-1} + d'_k + d_{k+2} + \cdots + d_{p+u}$$

$$\text{for all } k + 2 - p \leq u \leq m - 1 . \quad (13)$$

- したがって , m の場合でも条件 II が成り立つことを示すには , 次の不等式が成り立つことを示せばよい .

$$(k - p + 1) \quad h_p + h_{p+1} + \cdots + h_{k-1} + h_k$$

$$\geq d_p + d_{p+1} + \cdots + d_{k-1} + d_k \quad (14)$$

- そこで, $(b_k b_{k+1})$ の値を場合分けし, m の場合でも不等式 (14) が成り立つことを示す.
- $(b_k b_{k+1}) = (00), (10)$ の場合 : 不等式 (12) より, $h_{k+2} + h_{k+3} + \cdots + h_{p-1} \leq d_{k+2} + d_{k+3} + \cdots + d_{p-1}$ である. そして, $b_{k+1} = 0$ より, $h_{k+1} < d_{k+1}$ であるから, $h_{k+1} + h_{k+2} + h_{k+3} + \cdots + h_{p-1} < d_{k+1} + d_{k+2} + d_{k+3} + \cdots + d_{p-1}$ が成り立つ. したがって, 条件 I-2,4) より, 不等式 (14) が成り立つことが言える.
- $(b_k b_{k+1}) = (11), (10)$ の場合 : $b_k = 1$ より, $h_k \geq d_k$ である. したがって, 不等式 (11) より, 不等式 (14) が成り立つことが言える.
(上記のように, (10) の場合は, 2 通りの示し方がある.)
- 以上より, m の場合についても条件 II を満たす p が存在する. ゆえに, 定理が成り立つことが言えた.

Q.E.D.(定理 4.1)

- 次に，任意の \boxed{i} ， $0 \leq i \leq n - 1$ ，を選び，固定する．
- そして，次の m 個の整数を定義する．

$$i_u := \begin{cases} i & (u = 0) \\ i + \sum_{k=0}^{u-1} d_k & (1 \leq u \leq m - 1) \end{cases} \quad (15)$$

ただし，整数 i_u は n を法として考え，その添字は m を法として考える．

- そして，ある整数 \boxed{p} ， $0 \leq p \leq m - 1$ ，に対し，次の m 個の整数を定義する．

$$j_{p+u} := \begin{cases} i_p & (u = 0) \\ i_p + \sum_{k=p+0}^{p+u-1} h_k & (1 \leq u \leq m - 1) \end{cases} \quad (16)$$

ただし，整数 j_{p+u} は n を法として考え，その添字は m を法として考える．

- たとえば、 $\boxed{(i, p) = (0, 1)}$ ：

	j_{p+u}	3	4	5	6	0	1	2	3	4	
		j_1			j_2			j_0			
$p = 1 \rightarrow 3$		●	●	●	○	○					3
5				○	●	●	●	○			3
0						○	○	●	○	○	1
	i_u	i_1		i_2		i_0					
		3	4	5	6	0	1	2	3	4	

定理 4.2

次の2個の不等式からなる条件IIIを満たす p が少なくとも 1 個は存在する .

条件 III : すべての u に対し ,

$$1) \quad j_{p+u} \geq i_{p+u}, \quad (17)$$

$$2) \quad j_{p+u} + h_{p+u} - 1 \leq i_{p+u} + h - 1 \quad (18)$$

が成立する .

No. i	a_3	a_4	a_5	a_6	a_0	a_1	a_2	a_3	a_4	h_i
$p = 1 \rightarrow 3$	●	●	●	○	○					3
5			○	●	●	●	○			3
0					○	○	●	○	○	1

j_{p+u} $j_{p+u} + h_{p+u} - 1$
 \downarrow \downarrow
 i_{p+u} $i_{p+u} + h - 1$

中間ノードからシンクノードへの伝送方法

- 今後，整数 p を条件IIを満たすものとする．このとき，明らかに，この p は条件IIIも満たす．
- 各 $u = 0, 1, \dots, m - 1$ に対し，送信する $1/h$ シンボルの集合 $\{a_0, \dots, a_{n-1}\}$ の部分集合

$$M_{i_{p+u}} := \{a_{j_{p+u}}, a_{j_{p+u}+1}, \dots, a_{j_{p+u}+h_{p+u}-1}\} \quad (19)$$

を定義する．このとき，次の定理が成り立つ．

中間ノードからシンクノードへの伝送方法

- $\binom{n}{m}$ NW
- $(i_0, i_1, \dots, i_{m-1})$: 中間ノードの番号
- $(T_{i_0}, T_{i_1}, \dots, T_{i_{m-1}})$: サイクリックシフト伝送
- $(M_{i_0}, M_{i_1}, \dots, M_{i_{m-1}})$: 中間ノードからシンクへの伝送

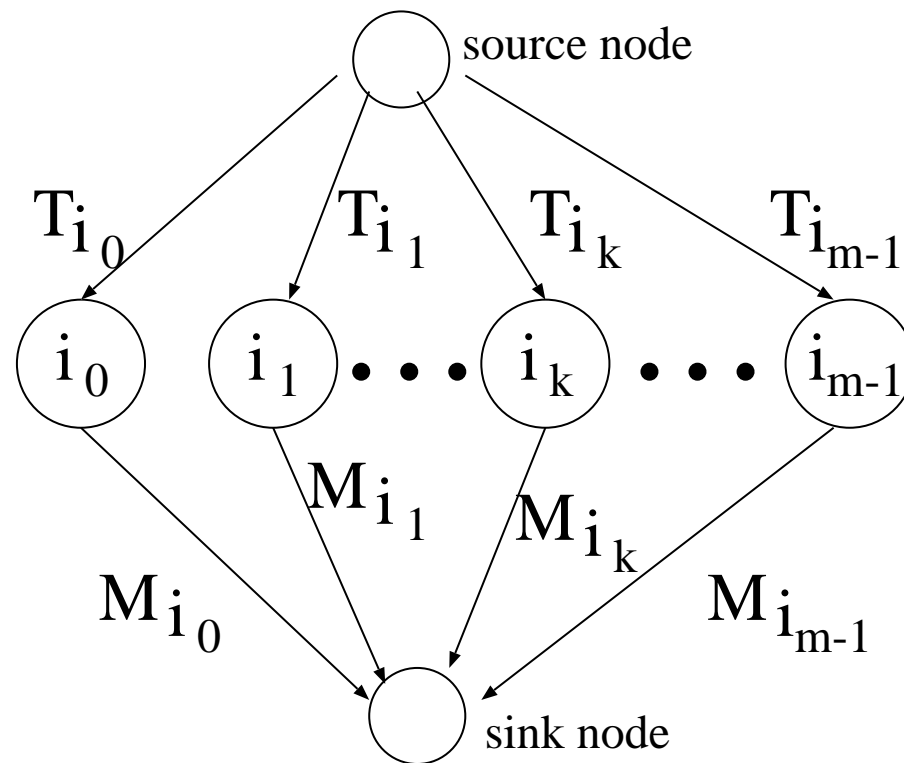


Figure 4: Flow from the source node to the sink via m intermediate nodes i_0, i_1, \dots, i_{m-1} .

定理 4.3

整数 p を条件 II を満たすものとする . このとき , すべての u に対し , $M_{i_{p+u}} \subseteq T_{i_{p+u}}$ が成り立つ . さらに , $\cup_{u=0}^{m-1} M_{i_{p+u}} = \{a_0, \dots, a_{n-1}\}$ が成り立つ .

補題 4.1

以下の 3 つの文章は同値である .

- i) $\binom{n}{m}$ 個のシンクの中から任意の 1 個を選ぶこと .
- ii) n 個の中間ノードの中から任意の m 個を選ぶこと .
- iii) 式 (15) に対し , 任意の整数 i と 整数の組 (d_0, \dots, d_{m-1}) を選ぶこと .
ただし , (d_0, \dots, d_{m-1}) は , 条件 I-1,2) を満たす .

定理 3.1(ルーティング制御定理) の証明

補題 4.1 より , i と iii は同値である . そこで , 任意のシンクと整数の組 (h_0, \dots, h_{m-1}) に対し , 中間ノードからそのシンクへ伝送する $1/h$ シンボルの集合を式 (19) のようにする . すると , 定理 4.3 より , シンクはソースにおいて生成された n 個のすべての $1/h$ シンボルを受信できる . そして , そのときに伝送されるシンボル量は , ルーティング容量に一致する . ゆえに , 定理 3.1 が成り立つことが証明された .

Q.E.D.(定理 3.1)